

受験番号	国語教育領域
------	--------

令和7年度

筑波大学大学院 教育学学位プログラム 博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 (10月実施)

専門科目

(13:00～15:00)

解答要領

次の事項に注意して解答しなさい。

1. 国語教育領域の専門科目試験問題は、「教科教育に関する問題」と「教科専門に関する問題」から構成されています。すべてに解答してください。
2. 「解答はじめ」の合図があるまでは解答を始めてはいけません。
3. 「解答やめ」の合図があれば直ちに筆記用具を置いてください。合図の後も筆記用具を持っている場合には不正行為と見なします。
4. 専門科目の問題用紙の枚数は5枚です。
5. 解答は、問題用紙に直接記入してください。
6. 問題用紙のホチキス止めは外さないでください。
7. 日本語で解答してください。

【 令和7年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号

領域名 国語教育

専門科目（教科教育に関する問題）

五 枚のうち 一 枚目

一、次の①から⑤の中から三つを選び、簡潔に説明しなさい。なお、選んだ項目の記号を（ ）内に書き入れて解答すること。

① 基本的指導過程 ② 西尾実 ③ リテラチャー・サークル ④ 合意形成 ⑤ 高校新

設科目「現代の国語」

（ ）

（ ）

（ ）

（裏面解答可）

【 令和7年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号

領域名 国語教育

専攻科目（教科教育に関する問題）

五枚のうち二枚目

二、次の表は、国際リテラシー学会（International Literacy Association）がリテラシー教育に携わる全ての専門家にとって必要な資質・能力を示したスタンダードである。この内容を踏まえて、国語科教師に必要な資質・能力について、あなたの考えを日本語で述べなさい。

（著作権法に基づき削除）

（裏面解答可）

【 令和7年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号

領域名 国語教育

専門科目（教科専門に関する問題）

五 枚のうち 三 枚目

第一問（日本文学領域）

問題番号（一）

次は『宇治拾遺物語』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

今は昔、かくしだい隠題をいみじく興ぜさせ給ひける御門の、ひちりき筆策を詠ませられけるに、人々わろく詠みたりけるに、木こる童の、暁、山へ行くといひける。「この比筆策を詠ませさせ給ふなるを、人のえ詠み給はざる、童こそ詠みたれ」といひければ、具して行く童部、「あな、おほけな。かかる事ないひそ。さまにも似ず。いまいまし」といひければ、「などか必ずさまに似る事か」とて、
A めぐりくる春々ごとに桜花いくたびちりき人に問はばや
といひたりける。さまにも似ず、ひちりき思ひかけずぞ。

問一 傍線部分「かかる事」の内容を説明せよ。

問二 波線部分「さまにも似ず、思ひかけずぞ」とはどういうことか。Aの歌を踏まえ
て説明せよ。

問題番号（二）

日本近代文学における言文一致体の重要性について、知るところを述べよ。

（裏面解答可）

【 令和7年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号

領域名 国語教育

専門科目（教科専門に関する問題）

五 枚のうち 四 枚目

第二問（日本語学領域）

(一)

令和六年に文化庁が日本語のローマ字表記のあり方を改めて検討している。外国にルーツを持つ児童生徒が増える中で学校教育におけるローマ字表記をどのように考えれば良いか、表記の例を具体的に挙げながらあなたの考えを述べなさい。

(二)

現代仮名遣いとは異なる、過去に行われた仮名遣いの例を挙げ、現代仮名遣いに対してどのような異なりがあるかを、具体例を挙げながら述べなさい。

(裏面解答可)

【 令和7年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号

領域名 国語教育

専門科目（教科専門に関する問題）

五 枚のうち 五 枚目

第三問（中国文学領域）

次に掲げるのは『淮南子』の一節である。この文章を読んで、後の問に答えよ。

夫神農・伏犧、不^{注①}施賞罰、而民不^{注①}為非。然^{注①}而立^{注①}政者、不能^{注②}廢法而治^{注②}民。舜^{注②}執^{注②}干戚、而服^{注②}有苗。然^{注②}而征伐者、不能^{注②}積^{注②}甲兵、而制^{注②}強暴。由^{注②}此觀^{注②}之、法度者、^{注②}所以論^{注②}民俗、而節^{注②}緩急^{注②}也。器械者、因^{注②}時變^{注②}、而制^{注②}宜適^{注②}。夫聖人作^{注②}法、而万民制^{注②}焉。賢者立^{注②}礼、而不肖者拘^{注②}焉。制^{注②}法之民、不^{注②}可^{注②}与^{注②}遠^{注②}。拘^{注②}礼之人、不^{注②}可^{注②}使^{注②}心^{注②}變^{注②}。耳不^{注②}知^{注②}清濁之分者、不^{注②}可^{注②}令^{注②}調^{注②}音、心不^{注②}知^{注②}治乱之源者、不^{注②}可^{注②}令^{注②}制^{注②}法。^{注③}必有^{注③}獨聞之聰、獨見之明、然後能擅^{注③}道而行矣。

（注） ① 神農・伏犧 || 古代の帝王。

② 舜執干戚而服有苗 || 古代の聖天子である舜は、戦をせず異民族である有苗を服属させた。

③ 遠举 || 遠い昔のことを挙げて論じる。

問一 傍線部分（1）「然而立政者、不能廢法而治民」を現代語訳せよ。

問二 傍線部分（2）「所以論民俗而節緩急也」を書き下せ。

問三 傍線部分（3）「必有獨聞之聰、獨見之明、然後能擅道而行矣」とあるが、自在に政治を行うことができる聡明な人とはどういう人か、本文の趣旨を踏まえ、述べなさい。

（裏面解答可）

令和7年度 専門科目（ 教科教育に関する問題 ）五 枚のうち 一 枚目

一、

【問題】

次の①から⑤の中から三つを選び、簡潔に説明しなさい。なお、選んだ項目の記号を()内に書き入れて解答すること。

① 基本的指導過程 ② 西尾実 ③ リテラチャー・サークル ④ 合意形成 ⑤ 高校新設科目「現代の国語」

【解答例】

- ・ 当該指導法を提案した人物に言及していること。
- ・ 当該人物が提案した理論に言及していること。
- ・ 当該指導法の具体的な方法に言及していること。
- ・ 定義を明確に述べると共に国語科教育の目標や領域と関連づけた内容になっていること。
- ・ 対応する旧科目「国語総合」や、他の新設科目と関連づけて、当該科目の目標や内容について言及していること。
- ・ 記述が論理的であるとともに、表現が適切であること。

【出題意図】

国語科教育において重要な人物、理論、指導法、概念などに関する内容を出題することで、国語科教育学に関する理解度を問うた。受験者が大学院において研究する上での文章作成力および情報や考えを整理する力等を有しているかについて確認する。

令和7年度 専門科目（教科教育に関する問題）五枚のうち二枚目

二、

【問題】

次の表は、国際リテラシー学会(International Literacy Association)がリテラシー教育に携わる全ての専門家にとって必要な資質・能力を示したスタンダードである。この内容を踏まえて、国語科教師に必要な資質・能力について、あなたの考えを日本語で述べなさい。

【解答例】

- ・ 国語科教師に求められる基本的な知識に言及していること。
- ・ 国語科のカリキュラムや指導法、評価に関する内容に言及していること。
- ・ 生徒の多様性や学習環境に関する内容に言及していること。
- ・ 生涯にわたって学び続ける必要性に言及していること。
- ・ 英文の内容を踏まえた記述になっていること。
- ・ 記述が論理的であるとともに、表現が適切であること。

【出題意図】

リテラシー教育に携わる全ての専門家にとって必要な資質・能力を示したスタンダードを出題することで、国語科教育学に関する理解度を問うた。受験者が大学院において研究する上で、英文読解力、文章作成力および情報や考えを整理する力等を有しているかについて確認する。

令和7年度 専門科目（教科専門に関する問題） 五枚のうち三枚目

第一問（日本文学領域）

問題番号（一）

【問題】

次は『宇治拾遺物語』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

今は昔、^{かくしだい}隠題をいみじく興ぜさせ給ひける御門の、^{ひちりき}筆箒を詠ませられけるに、人々わろく詠みたりけるに、木こる童の、暁、山へ行くとていひける。「この比筆箒を詠ませさせ給ふなるを、人のえ詠み給はざる、童こそ詠みたれ」といひければ、具して行く童部、「あな、おほけな。かかる事ないひそ。さまにも似ず。いまいまし」といひければ、「などか必ずさまに似る事か」とて、

A めぐりくる春々ごとに桜花いくたびちりき人に問はばや
といひたりける。さまにも似ず、思ひかけずぞ。

問一 傍線部分「かかる事」の内容を説明せよ。

問二 波線部分「さまにも似ず、思ひかけずぞ」とはどういうことか。Aの歌を踏まえて説明せよ。

【解答例（採点基準）】

問一解答例 隠題の「筆箒」を人々は上手く詠むことができなかつたそうだが、自分は上手く詠んだということ

問二採点基準 Aの歌に「ひちりき」が詠み込まれていることに触れ、童が柄に合わずに上手く隠題の歌を詠んだことが思いがけないことであつたということが説明されていること

【出題意図】

古文読解の基礎的な力と、解答作成における文章執筆能力を確認する。

第二問（日本語学領域）

（一）

【問題】

令和六年に文化庁が日本語のローマ字表記のあり方を改めて検討している。外国にルーツを持つ児童生徒が増える中で学校教育におけるローマ字表記をどのように考えれば良いか、表記の例を具体的に挙げながらあなたの考えを述べなさい。

【採点基準】

- ・現代日本語のローマ字表記にどのような体系及び規範があるか、それらの異同についての的確に把握できているか。
- ・現代日本語の音韻論的特徴を的確に理解し、それがローマ字表記にどのように反映されているかを適切に記述することができるか。
- ・日本語の表記・音韻に関する基礎的および専門的な知識に基づき、自身の考えを論理的に展開することができるか。

【出題意図】

- ・教科指導および教科専門としての日本語学分野において、音韻論・表記という複数の研究領域が関わり、また国語教育および社会生活にも深く関わっているローマ字表記に関する知識と論述を課すことで、博士前期課程にふさわしい国語教育の知見および修士論文執筆に求められる能力がどの程度あるかを評価する。

専門科目（ 教科専門に関する問題 ） 五 枚のうち 四 枚目

第二問（日本語学領域）

（二）

【問題】

現代仮名遣いとは異なる、過去に行われた仮名遣いの例を挙げ、現代仮名遣いに対してどのような異なりがあるかを、具体例を挙げながら述べなさい。

【採点基準】

- ・法令上の現代仮名遣いを正しく把握できているか。
- ・過去に行われた仮名遣い（定家仮名遣、歴史的仮名遣い等）の実態についての知識を反映した記述ができているか。

【出題意図】

国語における表記の基礎的事項に十分な知識と理解があるかどうかをみることにより、博士前期課程で学び、研究を実践するための基礎的な知見がどの程度あるかを評価する。

令和7年度 専門科目（ 教科専門に関する問題 ） 五枚のうち五枚目

第三問（中国文学領域）

【問題】

次に掲げるのは『淮南子』の一節である。この文章を読んで、後の問に答えよ。

夫神農・伏羲、不施賞罰而民不為非。然而立政者、不能廢法而治民。舜執干戚而服有苗。然而征伐者、不能秣甲兵而制疆暴。由此觀之、法度者、所以論民俗而節緩急也。器械者、因時變而制宜適。

夫聖人作法、而万物制焉。賢者立礼、而不肖者拘焉。制法之民、不可与達拳。拘礼之人、不可使応変。耳不知清濁之分者、不可令調音、心不知治乱之源者、不可令制法。必有独聞之聡、独見之明、然後能擅道而行矣。

問一 「然而立政者、不能廢法而治民」を現代語訳せよ。

問二 「所以論民俗而節緩急也」を書き下せ。

問三 「必有独聞之聡、独見之明、然後能擅道而行矣」とあるが、自在に政治を行うことができる聡明な人とはどういう人か、本文の趣旨を踏まえ、述べなさい。

【解答例（採点基準）】

問一解答例 しかし為政者は、法を廢して民衆を治めることはできない

問二解答例 民俗を論じて緩急を節する所以なり

問三採点基準 優れた為政者は、民をよく観察し、前例や決まりに拘束されず、要点を弁え、その時々状況にあわせて民をよく治めることができる人である、ということを理解した内容になっていること。

【出題意図】

漢文訓読の基礎を身につけているかどうかについて確認する。また、受験者が大学院において研究する上で必要な文章作成力をみるため、読解し整理する技術と、考えを適切に表現する力を有しているかどうかについて確認する。